

年次大会報告⑧

ファミリーアントレプレナーシップ研究の系譜と展望

濱口 正樹（静岡県立大学経営情報イノベーション研究科博士課程）

後藤 俊夫（日本経済大学大学院 特任教授）

落合 康裕（静岡県立大学 経営情報学部 経営情報学科 教授）

1. 問題意識と研究目的

昨今、ファミリーアントレプレナーシップ・Trans-generational Entrepreneurshipなどのテーマが隆盛である。しかし、様々な文脈（context）で述べられており、整理されているとは言えない。ファミリービジネス（以下FB）研究における企業家精神の取り扱いに関する海外著名ジャーナルの先行研究を体系的に整理し、先行研究における含意と課題を明らかにする。そのうえで、今後の実証研究に向けた論点の整理と展望を提起する。

2. 研究対象

研究対象は蓄積された先行研究となる。対象ジャーナルと論文の網羅性を担保するために厳密な抽出ロジックを選択した。対象ジャーナルは、両分野のトップジャーナルのFamily Business Review 誌 と Entrepreneurship Theory and Practice 誌にし、それぞれ創刊以降の期間でアントレプレナーシップとFBの用語で抽出した。最終的に87論文をレビューし、体系化を行う。

3. 分析

(1) 体系化の進め方

3つの視点から先行研究を整理する。

①研究対象の「時間」：企業のライフサイクルのどの段階を研究対象としているのか。

②研究の「背景」と「目的」：

「何が問題なのか」の問題意識を明確にし、「何を明らかにするのか」その範囲を特定する。

③Entrepreneurship に対する「変数」と「結果」：企業家精神の概念を中心にFBに対して影響を与えるのか、それとも逆にFBから影響を受ける研究なのか。

(2) 体系化1：研究対象の「時間」

Nordqvist et al. (2013) を流用して企業のライフサイクルを3つの段階に分ける。START-UP PROCESS 段階を「起業」。PROCESS OWNING & RUNNING A FIRM 段階を「現職」。MANAGING SUCCESSION PROCESS と POST SUCCESSION 段階を「複数世代間」とする。

表1：「時間」別論文数

	起業	現職	複数世代間
1990年代	4	3	1
2000年代	10	7	6
2010年代	13	12	5
2020年代	5	4	3
合計	32	26	15

表1より、「起業」段階の研究が多く全体の約44%を占める。また、この段階の研究は、FBが有する経営資源（社会関係資本や人的資本、金融

資本)が起業にプラスの影響を与えるという単純化した構図が多い(Au&Kwan, 2009; Habbershon, 2006)。

また、2020年以降に「複数世代間」段階が増加しているということ。今回便宜的に、事業承継前後の段階を「複数世代間」とカテゴリー分けしたが、この段階は事業承継というプロセス単体に注目しているものと世代を超えての長寿性のメカニズムを議論しているものの二つの潮流があることが判明した。

(3) 体系化2：研究の「背景」と「目的」

「何が問題で何を明らかにするのか」の問題意識としての背景を三つに分ける。

①FBと企業家精神の関係性を明確にする

②ある特殊状況下でのFBと企業家精神の関係性を明確にする

③企業家精神のひとつの文脈(context)としてFBを取り上げている

また、背景①の関係性の明確にすることの目的として、ファミリービジネス研究と企業家精神研究の橋渡しをする目的、非FBとの特性・傾向の比較をおこなう目的、非FBの比較ではなくFB内での多義性を説明する目的、関係性の内部メカニズムを明確にする目的、の4つの目的が見られた。

次に背景②の「ある特殊条件下」は、起業(スタートアップ)時や事業承継時など「限定された時間」の中での関係性の研究と研究蓄積が乏しい国(アフリカ、中国など)や東西統一後のドイツ、「家制度」がある中国などの特別な状況下での「関係性」現象を明確にするといった「限定された場所」での研究が存在する。

FBの特性と企業家精神の関係性に言及する際に同じ現象に対して、研究者によって結論が両極

で矛盾している状態がある。これをパラドクス状態とする。FBの特性が企業家精神に対して促進的な影響を与えるのか、逆に制約的な影響を与えるのか。変数となる特性の例として、「長期志向性」(Zahra et al., 2004; Eddleston et al., 2012; Fang et al., 2021), 「リスク性向」(Gómez-Mejia et al., 2023), 「社会関係資産」(Eddleston et al., 2012; Arregle et al., 2015)など。

(4) 体系化3：Entrepreneurship に対する「変数」と「結果」

「変数」の視点による体系化とは、「○○によってEntrepreneurshipが影響を受ける」という原因変数の研究、と逆に「Entrepreneurshipによって～○○が影響を受ける」という結果変数の研究のどちらなのかという視点。かつ、「結果」の視点とは、それぞれの影響が、促進的なのか/制約的なのか/どちらでもありうるのかという分類。

表2：「変数」「結果」別論文数

		論文数	
		促進的	制約的
原因変数「○○によってEntrepreneurshipが影響を受ける」	61	25	3
		どちらでも	33
結果変数「Entrepreneurshipによって○○が影響を受ける」	9	4	2
		どちらでも	3

結果として、原因変数の研究が61論文と圧倒的に多い。FBの特有な要素が原因変数や調整変数として設定されるため、FB研究からのアプローチとしては入りやすい(表2)。

3サークルモデルに当てはめて内部コンテキストの原因変数を整理する。オーナーシップサイドは所有という単語。ファミリーサイドでは、ファミリーの関与 価値観・文化 個人特性 世代。ビジネスサイドは組織文化 経営資源 企業のライフサイクル 組織能力 ガバナンス制度などの単語で表現されている。

次に、影響の部分が「促進的、制約的のどちらでもある」というこの33の論文を深掘する。状況に応じて促進的にもなるし制約的にもなるというポジネガの議論がパラドクス議論につながるとする。そして、両方ともそのような現象を引き起こす変数は社会情緒的資産 SEW, 利他主義, 長期志向やリスク回避性向などの「価値観・文化」の変数と社会関係資本・経営資源, 家族的つながりで表される「経営資源」変数になる。

4. 議論 まとめ

「時間」で研究対象の時制を明確にし、研究の「背景」と「目的」で全体の環境・コンテキストの構図を整理、最後の「変数」と「結果」の研究でこの内部で生じているダイナミクスの状況を整理した。最終的に図1に先行研究の体系図を提起する。

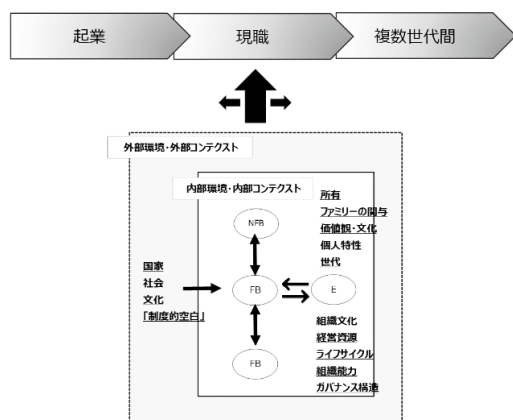


図1：体系図

5. 今後の研究の展望

「時間」による体系化にて、世代を超えての長寿性のメカニズムを議論している研究が増えてきていること既述した。この Trans-Generational Entrepreneurship とはなにか? 「世代を超えて、企業家の財務的社会的価値を新しく創造するために、世代間企業家精神をファミリーが企業家マイ

ンドセットや経営資源やケイパビリティを行使し発展させるプロセス」とする Habbershon et al (2010) の定義に依拠している研究が大部分である。

Habbershon et al(2010)では, Trans-Generational Entrepreneurship を発揮させるためには, 「企業家的マインドセット」と「経営資源やケイパビリティ」の二つが必要ということ。

つまり, 組織文化面と経営資源の二つの要素を重視している。奇しくもファミリービジネスのパラドクス状態の議論と同じく「価値観・文化・マインドセット」と「経営資源」の同じ要素が提起されている。

これは偶然なのか?

最後に, 企業家精神とファミリービジネスの関連性の研究のための今後の方向性(展望)を提起する。

1. 「価値観・文化・マインドセット」と「経営資源」が企業家精神に与える影響を単体/組み合わせの両方の場合で整理を行う。
2. 社会関係資本以外の「経営資源」を探索し, 企業家精神(行動)に対するプラス面とマイナス面を整理する。
3. 「存続する」ことを事業承継に限定するのではなく, 「複数世代間」にわたる事象にフォーカスし, より広い経営行動を研究対象とする。

参考文献

- Arregle,J., Batjargal, B., Hitt,M.A., Webb,J.W., Miller,T. & Tsui,A.S.(2015). Family Ties in Entrepreneurs' Social Networks and New Venture Growth. *Entrepreneurship Theory and Practice*,39(2),313-344.
- Au,K. & Kwan,H.(2009). Start-Up Capital and Chinese Entrepreneurs: The Role of Family. *Entrepreneurship Theory and Practice*,33(4),889-908.
- Eddleston,K.A., Kellermanns,F.W. & Zellweger,T.M.(2012). Exploring the Entrepreneurial Behavior of Family Firms: Does the Stewardship Perspective Explain Differences? *Entrepreneurship Theory and Practice*, 36(2),347-367.

- Fang, H., Chrisman, J.J. & Holt, D.T. (2021). Strategic Persistence in Family Business. *Entrepreneurship Theory and Practice*, 45(4), 931-950.
- Gómez-Mejía, L.R., Chirico, F., Martín, G. & Baù, M. (2023). Best Among the Worst or Worst Among the Best? Socioemotional Wealth and Risk Performance Returns for Family and Non family Firms Under Financial Distress. *Entrepreneurship Theory and Practice*, 47(4), 1031-1058.
- Habbershon, T.G. (2006). Commentary: A Framework for Managing the Familiness and Agency Advantages in Family Firms. *Entrepreneurship Theory and Practice*, 30(6), 879-886.
- Habbershon, T., Nordqvist, M., & Zellweger, T. (2010). Transgenerational entrepreneurship. In M. Nordqvist & T. Zellweger (Eds.), *Transgenerational entrepreneurship: Exploring growth and performance in family firms across generations*. Cheltenham, England: Edward Elgar, pp. 1-38.
- Nordqvist, M., Wennberg, K., Bau, M., & Hellerstedt, K. (2013). An entrepreneurial process perspective on succession in family firms. *Small Business Economics*, 40(4), 1087-1122.
- Zahra, S.A., Hayton, J.C. & Salvato, C. (2004). Entrepreneurship in Family vs. Non-Family Firms: A Resource-Based Analysis of the Effect of Organizational Culture. *Entrepreneurship Theory and Practice*, 28(4), 363-381.